

向陽

〒780・8014 高知市塩屋崎町1丁目1-10 TEL(088)833-4394 FAX(088)833-7373

<http://www.tosaobog.com>



戸田浩司君 (80回生) 復活登板

「高知大学の選手への交代をお知らせします。……ピッチャー戸田君 土佐高校 背番号99」

東部球場の場内アナウンスの音が観客席に響き、満を持してフルベンで準備していた戸田浩司が、決意を胸にピッチャープレートに向います。昨年二月の造血幹細胞移植から一年六カ月、十月二日の大学復学から数えても十一月……彼にとつて今日この日このマウンドに登るまで、二〇〇五年九月の発病以来まる二年間にわたる闘いでした。

土佐高同窓会ははじめ、在校生・保護者・振興会・教職員の皆さんはもちろん、土佐高・高知大とはそれまでご縁のなかつた各界の方々にも広がった全国的なご支援の輪に支えられて、私たちの戸田浩司は八月二十三日、待ちに待った四国六大学リーグの開幕戦のマウンドに二ツコリとほほえみながらかけ登り、8・9回の2イニング、26球の力投で六人の打者をパーフェクトに抑えて、見事に復活登板をはたしました。

ありがとう戸田浩司……。私たちは君の、不屈の闘志で生きぬく笑顔に心からの拍手を送ります。

坂本 隆 (47回生)

土佐中・高等学校 同窓会総会
 「2007 ホームカミングデー」

日時 / 平成19年8月12日(日) 11:00~15:00 / 土佐中・高等学校



輝いたあの頃に帰ろう

35周年を迎え見納めとなる校舎に集う47回生

47回生35周年記念同窓会開催
 あのころの煌めきはいつまでも 岡田 容典(47回生)

今年のホームカミングデーは現校舎で開催出来る最後とあって、五〇〇人を超える同窓生が集まりました。奇しくも我が47回生にとっては、卒業35周年の年であり、しかも我々が現校舎の最初の卒業生ということもあって(高三の一年間だけ過ごすことが出来たのです。)
 「さようなら、私たちの新校舎」と銘打って、昼の部は学校で47ホームカミングデーを、夜は新阪急ホテルで大宴会を開催しました。

今年度のホームカミングデーは現校舎で開催出来る最後とあって、五〇〇人を超える同窓生が集まりました。奇しくも我が47回生にとっては、卒業35周年の年であり、しかも我々が現校舎の最初の卒業生ということもあって(高三の一年間だけ過ごすことが出来たのです。)
 「さようなら、私たちの新校舎」と銘打って、昼の部は学校で47ホームカミングデーを、夜は新阪急ホテルで大宴会を開催しました。

男くんの尺八ライブが行われました。夜の部ではお宝が続出！ 先ずは3Kクラスマッチの映像が当時のホームゲームの音と共にスクリーンに映し出されるや、女子のブルマ姿に拍手が起こり、次に2Sの仮装行列のナレーションが流れる中で、土佐中・高時代の写真をストーリー仕立てで映し始めると、誰もが、シーンと食い入るようにみつめ、気持ちは一気に甘酸っぱい青春時代へと。とどめは、47回生が受験した中学入試問題、編入試験問題に取り組むというもの。試験というと、目の色が変わる土佐高生の性とも申しまじょうか……みな必死で解く姿が印象的でした。この日の様子は、47回生ホームページの35周年にドキュメントとして掲載していますので是非ご覧下さい。
<http://tosa47.hp.infoseek.co.jp/>

靖正木先生



蜷扇谷先生



蜷扇谷先生

52回生30周年記念同窓会開催

全力疾走フォーエバー 清谷 知郎(52回生)

「47回生が挑戦状を叩きつけて来たぜよ」

この一言が宣戦布告となって野球部・テニス部・応援部・ソフト部・卓球部など体育系クラブのOBに一齐にお呼びがかかった。

「五つも年上のオンチャンらに負けるもんかよ！」と威勢のいい声が次々とあがる。

元々、「六つのホームでトーナメントを」という計画があって、集まった人数は三〇名。

一方の47回は一〇人とギリギリの人数である。「では、外野を4人で守るといふことで」と、敵の「ギブアップ待ち」の作戦を井上監督がと

り、私も「10番打者・ポジションはライトの右」というふざけた形でスタメン入りした。

初回到ドカンと4点を先取し「けっ！チヨロイもんだぜ」と甘く見た訳ではないけれど、敵も「野球部のレギュラー」がおったりして追いつがってくる。こちらだって武内・小橋の甲子園組の鋭い打球は目を見張るほどだ。

勿論、目を疑うような珍プレイも続出する。

結局、致命傷になったのがセンターを守っていたN平法生君(あえて名を秘す)の落球。

しかし、「7回まで」の取り決めだ

つたのを「バテた。5回打ち切りでヨロシク！」とゲーム中に変更した47回の「年の功」にやられ、あえなく5対6の逆転負けを喫してまった。「リターンマッチは？」とはやる参加者をなだめ、「やっぱ先輩に花を持たせにやねや」と精一杯の負け惜しみで宴会になだれ込んだ。

「医者なら山ほど来とるから安心してやれ」とハツパをかけたものの、遠く山形から参加した丁造豊彦君の御利益か、ケガなく済んだ。

旧グラでのソフトもやり納め、そして昭和四七年に建った校舎もこれで見納めになる。

物理的には「全力疾走」は出来ないけど、土佐高新时代に向かって、心は「全力疾走」。



52回生と47回生のソフトボール大会(旧グラ)



土佐中・高等学校同窓会(2019年)・カメラマン(土佐)・実行委員会(土佐)・編集(土佐)・写真(土佐)・副委員長(谷晃(6))・副委員長(正木和明(2))・総務(広報部長:岡田典典(4))・総務(広報部副部長:北村恵子(4))・インストラクター(高橋賢嗣(9))・インストラクター(門田幹也(8))・会計(千頭裕(8))・企画サポート(村山隆司(6))

「やぐら」グラフィティー 番外編

山岡 伸一（45回・S）



話は昭和四十三年の早春、高一の三学期に遡る。中二の時から同じクラスで、中三の三学期の美術のグループ製作の課題を一緒に手掛けて以来意気投合していた尾立弘史が、「おい、櫓を一緒にやらんか」と持ち掛けてきた。

自分自身土佐中に入学して初めての運動会で櫓を目にして、「なんと面白い事をやる学校か！」と感動、絶対櫓の製作委員になるぞ！と密かに心中期していたので、「おう、やろうぜ！」と即応した。が、土佐高では高一・高二ではクラス替えが無いので、高三の行事の櫓作りを一緒にやるためには高二で同じクラスになつていなければならない。その保証は無いので、誓い合ったはいいが反面頼りなさを感じていると、「については、高二で同じクラスにしてもらえるように先生に頼みに行こ

う」と、さらに畳み掛けてきた。

そこまで考えていたのか、と感心する一方「そこまでやるか!？」と呆気にとられたが、ともかく引つ張られるようにして、ある日の終業後のホームルームの後、廊下を去って行く当時の担任の数学の武中敏雄先生を呼び止めて、「先生、お願いがあります。実は二人で高三の運動会の櫓を一緒に作りたいと思っておりますが、高二で二人を同じクラスにして頂けないでしょうか」と単刀直入にお願いした。

こんなふざけた趣旨でのお願いがすんなり聞き届けられるとも正直思えず、その場で叱り付けられても不思議は無かったが、先生もただ呆気に取られたのかもしれない、しばしじつと二人の顔を見つめて、「わかった、まあ考えておこう」とおっしゃって歩み去って行かれた。

明けて高二の新学期、なんと首尾良く二人同じSホームになっていて（担任は現国の田内瑞穂先生）、廊下で二人で喜んでいるとたまたま武中先生が通りかかれて、我々を見るや、「どうな、ちゃんと一緒になっちゃったろう」と声を掛けられた。それで二人声を合わせて「はい、有難うございました！」と喜色满面お礼を言った。

しかし、実のところ、これが本当に先生がそのように配慮して下さつて実現したことなのか、たまたまうまく同じクラスになっていたのでそのようなおっしゃったのか、お聞きするわけにもいかず、真相は未だに判断としない。でも、同窓会での話を披露すると、級友たちの多くは「あの先生ならきつと実際にそうし

て下さったんじゃない？」と言うので、自分もやっぱりそうだったに違いないと得心している。

そして高三の夏休み、いよいよ櫓の具体的な構想を相談しようということになって、尾立が家へやって来た。「櫓をやる」と言っても自分の関心の主眼は看板画を描く事にあつて、それはやはり担任の田内先生の似顔絵で行こうと最初から決めていて、それまでに下絵を仕上げ待っていた。当時大学では学生運動が吹き荒れ、この年の一月には東大安田講堂の攻防戦があつて、そのころ現れた「泣いてくれるなおつ母さん、背中の桜が泣いている」とセリフを入れた桜吹雪の刺青の看板絵のイメージを借りて、諸肌脱いだ背中に刺青の渡世人姿の絵に仕上げた。櫓全

体のデザインは、その安田講堂に見立てた塔を中央に据えながら、どうしても和風の感じで行きたいと思い、既に先輩たちも利用していた鉄パイプの足場を組み上げるのでなく、伝統的な丸太の足場に杉・檜の葉っぱを取り付けてと考えていた。

尾立にその案を提示すると、似顔絵の方は即座に気に入ってもらえて、二期の始業式の日にきつと学校へ持って来いと言われたが、丸太の足場案は「いかん。そんなのはきょうび役がかかって仕方が無い。パイプの組み立て足場の方が絶対段取りがえい。和風にしたけりゃ、それに杉やら檜やらの葉っぱを取り付けて隠したらえいがやき」と立ち所に却下された。

新学期、下絵を持って登校すると、尾立はそれを持って早速クラス中に

見せて回り、精力的に根回しを始めた。幸い絵はクラスメートにも好評を得て、早くも、檜の総監督は尾立絵は山岡、という了解がなんとなく出来上がっていた。

ところで、下絵では渡世人姿の田内先生に、取りあえず、背中に回した右手に短刀、左手に「果し状」と書いた紙を持たしておいたが、我ながらどうもピリツとせず、もう一捻り必要に感じていた。一渡り根回しを終えて戻って来た尾立は改めてその下絵をしげしげと見つめて、「果し状かあ…」と呟いてから、不意に「内申書はどうな？」と悪戯っぽく持ちかけた。それを聞くなり「それじゃ!!」とたちまち自分も閃いて、帰宅するや否や暫時、左手に大盃、右手で内申書の束に短刀を突き立てて睨みを効かす図柄に描き変え、そ



田内先生の似顔絵原画

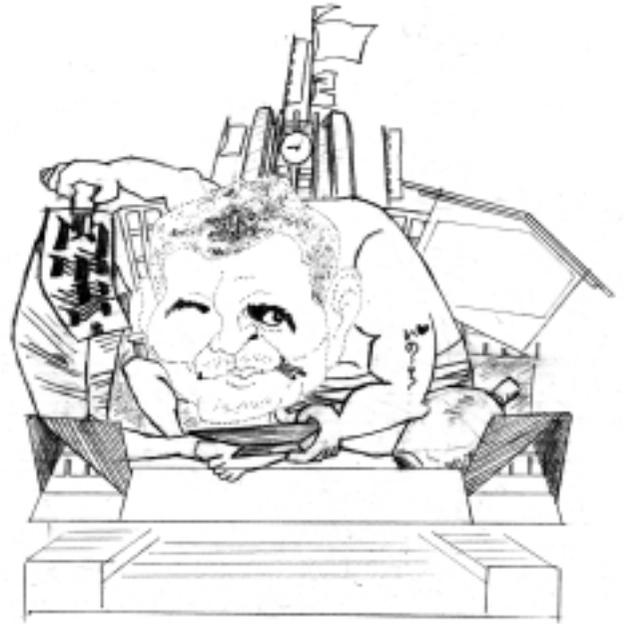
れに合わせて檜のデザインも一気に仕上げてしまった。

その後クラス会で正式に実行委員が決まり、絵は晴れて自分が描かせてもらうことになって、順調に滑り出したかに見えた『三S檜プロジェクト』だったが、ある日の朝礼で担任の田内先生に冷や水を浴びせられることになった。「聞くところによると、諸君らの中では早くも運動会の檜作りに向けた動きがあるようだが、今諸君らは受験を前に非常に重要な時期にある。運動会にはまだ間がある。くれぐれも本分を忘れてうわついた気分になることの無いように。」とはいえ、中一の時から五年間蓄えられてきたエネルギーにいいよ火がつけられた今、そう言われたくらいでしゅんとなるような我々ではなかった。むしろ、以後深く静かに潜行しながら着々と計画は進められていった。

その過程で、尾立の設計・施工から資材の調達にいたる実際面での才能にはつくづく感心させられた。兄さんだか先輩達だかから積極的な情報を得て、足場パイプなどの建築材料や杉や檜の葉っぱなどはいつの間にか尾立が調達の段取りをつけていた。その所要所では自分に「おい付き合え」と言ってきた、二度ほど

建築業者などの事務所に交渉に連れて行かれたが、自分は連れて行かれた相手の名前や場所すら覚えていないし、その謝礼をどうしたかもさっぱり記憶に無い。

資材が揃いよいよ檜の建設が始まったある日、何でだったか、田内先生が休みで代わりに朝礼に来られたのだったか記憶がはっきりしないが、Hホームの担任の物理の岡部淳之助先生が我々の教室に見えて、開口一番「お前らという者は実に怪しからん」と堅い表情でのたまわった。「わしらのクラスは檜を丸太で組むために、暫く前からわしも一緒になって昼休みにも放課後にもせつせつせつと穴を掘りよった。ところがお前らは一向に取り掛かる気配が無いので、どうするんじやろと思いついたら、この間ようやくパイプやら資材が届いたと思つたら、たちまちどつとたかって、あれよあれよと言う間にわしらを追い越して組み立ててしまふよつた。人が役掛けてこつこつとやりゆうの尻目に、手っ取り早ようつぱつと仕上げてしまふような遣り口は全くもって怪しからん」と苦り切っておつしやつた。何を言われるかと息を詰めていたクラス中に爆笑がはじけた。「段取りの尾立の面目躍如と言うところだった。」



デザイン原図

一方で、肝心の看板画の方の第一の問題は、数センチ角の原画をいかにして縦横数メートルの大きさに拡大するか、という事だった。いくらか考えても名案は浮かばないので、結局、原画を方眼紙に写し要所要所を座標に取って、まず二・五倍、次に五倍と段階的に拡大していき、最後は教室の床に並べたベニヤ板に座標を写して線で結び、教壇のあたりからせいっぱい遠目に眺めて修整する、というやり方であった。

始めのうちはよそのクラスの連中ももちろん当の田内先生にも内容を知られることの無いよう、放課後の教室で部外者立ち入り禁止にしてせつせと描いていたが、いよいよ色を塗る段階になると一枚ずつばらばらにして作業してよく、それなら人に見られても内容を知られる心配は薄いので、補習をサボって早朝から廊下で塗ったりしていた。運動会も近づいたある朝、いつもの様に廊下で塗っていると横に人の気配がしたので、目を上にとやると、数学の本直四郎先生が朝の補習に向かう途中立ち止まって見下ろしておられた。補習もこれはあ熱心に出てくれる

とええですがのオ」数学が苦手な自分には直さんは「天敵」だったので、その場で固まって「ハ、ハイ」と答えただけだった。

いよいよ運動会前日の午後、櫓は大方組み上がって後はほぼ看板画を取り付けるばかりとなり、現場部隊から絵はまだかと矢の催促。ようやく引き渡して、内心早く仕上がりを見てみたいという気持ちを抑えながら教室で後片付けをしていると、現場部隊の堀内雅博が、「山岡、来てみい！ええぞ！」と嬉しげな表情で駆け込んで来た。それに促されて駆け付けて見ると、現場部隊が手際よく組み付けてくれて思わく通りに出来上がった櫓の全容が目に入った。

すかさず尾立が横に来て、「最高！」と満足げな笑みを浮かべ、続けて曰く、「実は高さ違反をやってもうた。予定通りに組み立ててから、まだ足場が残っちゃってなあ、どうすらあ？て皆に聞いたら、（紅一点、女子でただ一人現場部隊に加わっていた）山崎真理さんが『やっちゃえやっちゃえ』言うたき、その一声でよっしゃやれやれ！いうことになって、最後にもう一段上へポンと乗つけたわけよ。それで、おれらあのが一番高い櫓になった。けんども違反じゃき、おおっぴらにはできん

幸いというべきか、このことは部外の誰にも気付かれること無く終わり、後々まで何のお咎めも受けずに済んだ。田内先生は後に土佐高在職中の思い出や逸話を綴った自著『甚田先生はだか日記』の中で、この年Hホームの鶴見隆平君らが設計につき直さんの許可を得るのに苦心したエピソードを記しておいでるが、当のご自分のクラスが抜けぬけと高さ違反をしていたことは露く存知無かつた。本出版後何度か先生のお宅にお邪魔したことがあるが、ついにそのことは告白しそびれている。

さて、現在では櫓の規格も材料も統一されて、一括して手配されているように聞く。いろいろの事情があつてのことだろうが、やはり、立案から資材の調達まで丸ごと生徒に任せてやらせてこそ、自主独立の精神を培う有意義な行事になるのではないだろうか。

櫓作りを価値ある伝統行事として認識し、時に叱りながらもすべて心得て（内心はらはらしながらだつたらうが）見守って下さった先生方に、そしておらかだつた校風にただただ感謝をささげたい。

学校近況「報告



学校長
池上 武雄

仲秋の候、皆様方にはお变りなくご清勝のこととお慶び申しあげます。平素は母校に対し格別のご高配とご支援を賜り、有難く厚く御礼申しあげます。

一、新校舎建築募金への協力に感謝

本年一月、新校舎建築募金委員会が、同窓会、振興会、学校からの委員構成で立ち上げられ、岡内紀雄氏（本校理事・同窓会副会長・34回生）を委員長として準備活動が進められました。四月から募金活動が始まりました。まず同窓生の皆様方宛に、趣意書、募集要項、払込取扱票、寄付者銘板説明などを同封のうえ募金をお願いを申しあげましたので、すでにお目通しいただけたものと思います。同窓生の皆様からは、このお願いに早速に呼心いただき、ご芳志のお申し込みやお振込みなど温かいご協力を賜っておりますことを心より感謝申しあげます。

○三件、金額で一億一千万円余となつております。（詳細は本校ホームページをご参照下さい。）なおこの中には同窓生以外の有志の方々や、本校へ格別のご好意をお寄せ下さっている一般企業のほか、振興会からの、かねてより建築協力金として積み立てて下さっていた二千万円の寄付金も含まれております。

また、宮地貫一理事（九月六日の理事会にて新任）もご挨拶に川B家・宇田家ご両家のお募参りをされた後、県、地元有力企業や諸団体に理事長就任のご挨拶を兼ねて募金のお願いに足を運んでいただきました。「募金のコツは小まめに足を運ぶこと」と仰って精力的に取り組んで下さるお姿に、唯々感謝を申しあげております。

二、新校舎建築プロジェクトの進捗状況

九月二六日の吉日を選んで、起工式が旧グラウンドで厳粛の内にも滞りなく執り行われ、参加者一同心より工事の無事安全を祈願いたしました。起工式には、CM・三菱地所設計、設計者・安井建築設計事務所・西森建築設計JV、施工者・清水建設・新進建設JVの建築プロジェクト関係者、学校、同窓会・振興会の各役員、ご近隣の町内会長様のご参

加をいただきました。鴨工工事工程ほかの見直しがなされました

工事日程は、当初平成一九年七月から二一年七月迄を予定していましたが、色々な見直しの結果、一九年一〇月から二一年一月迄の約二六カ月を予定することとなりました。工事が少し遅れた主な理由は、アスベストの除去及び旧校舎・体育館の解体時期をできるだけ夏休み中に持つてくることにより、騒音、振動、塵埃、工事車輛の出入り等、生徒の皆さんに迷惑をかけるのを極力避けたいと考えたからです。このほか、当初計画にあったプールの新設をとり止め、浄化装置の取替えなど一部改修にとどめることにしました。こちらは工事費の節減をはかるための止むを得ない見直しであり、皆様のご理解をお願いいたします。鶏籠工事費が当初計画より超過する見通しです

最近の諸資材の高騰及び工賃の値上げなどから、本工工事費が当初計画を上回る三五億一千二百万円（税抜き。理事会で承認済。）となりました。このほかにも付帯工事費や消費税が見込まれます。本年三月完成しました向陽グラウンドに三億八千八百万円を要しておりますので、

当初計画の総事業予算四三億三千万円を超過することが避けられない見通しです。今後は付帯工事費の圧縮を検討し、超過分が大きくならないようできるだけの努力をして参ります。

多額の補助金を実現しました

誠に喜ばしいことに、高知県ならびに国から多額の補助金をいただけることになりました。決定額は、高知県からは約七億二千万円弱、国からは約三千万円の、合計約七億五千万円です。高知県からの補助金については、かねてより当局にお願いしあげておりましたものの、県の財政事情から無理なお願いかと資金繰りには未計上でした。しかし県当局の格別のご高配により三月県議会でご承認を得て実現することとなりました。このことから平成二一年の学納金値上げ予定をとり止め、当面現状据置きとすることが可能となりました。なお、宮地理事長が県へご挨拶に参りました時に、多額の補助金予算計上に御礼を申しあげました。本日に厳しかった残暑もようやく峠を越え、少しずつ秋めいて参りました。同窓生皆様のご健勝ご活躍を祈念申しあげ、近況報告といたします。

平成一九年十月



理事長就任のご挨拶

理事長 宮地 貫一

実りの秋を迎えて、同窓会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと存じます。この度、新生「土佐」の誕生に向けて、ご尽力下さいました川B幾三郎理事長が、平成一九年九月六日の理事会におかれまして、ご自身のご体調のこともありご退任の意向を示されました。

その席で、私に理事長就任のご推挙をいただき、理事会の御賛同を受けまして、第十代目となる理事長を引き継ぐこととなりました。その使命と責任の重さに身の引き締る思いで一杯でございます。

川B幾三郎氏には、三度にわたり四半世紀の間、理事長として学校の節目となる大事な時に大変お世話になりました。このことは、本当に筆舌に尽くしがたいものがございます。これからも、養生につとめられまして、この新校舎建築のプロジェクトの完成をお見守りいただきたいと念願しております。

我が愛する土佐中・高等学校のた

めに、少しでもお役に立つならばと思ひ、お引き受けをいたしました以上、土佐中・高の更なる発展のために全力を傾けていく決意を新たにいたしております。九月一九日には、

池上校長とともに、本校創立者の川B家、宇田家ご両家の墓前にご報告するとともに、翌二〇日には、県内の各方面のお世話になる方々にもご挨拶に廻るなど具体的な行動を起こ

しているところでございます。

当面の最大の目標であります新校舎建築の大プロジェクトは、学校、振興会、同窓会が一体となってやりとげる決意と、そのための具体的な行動が必要であり、そこにおのずから道が拓けて行くものと確信しております。

同窓生の皆様方の熱い御力添え、御支援を期待いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



本部活動報告

幹事長 安岡 範悦(39回生)

事業報告

1、二〇〇七年総会の開催

本日八月二日実質的には現校舎で最後の総会・ホームカミングデーとして開催し五〇〇名を超す校友が母校へ帰って来てくれました。

2、土佐中・高校新校舎建築計画に対する協力

平成一九年一月二五日、学校、同窓会、振興会からなる委員により構成される新校舎建築募金委員会が開催され、同窓会本部役員からは 宮地会長、岡内、横田、川B副会長、安岡幹事長、西山副幹事長、支部から泉谷関東支部長、川崎関西支部長、久保地東海支部長、沖広島支部長、宮地香川支部長、池川北海道支部長、代表幹事代表として36回生北岡代表幹事が就任し、委員長は岡内会長が選出されています。

本部支部連絡会により各支部の意見をお聞きし、募金委員会に反映、又各支部総会を訪問し協力を要請し

(9)

て参りました。募金状況についてはホームページに掲載させて頂いております(学年別クラス別ご芳名)さらに年一回広報誌である「向陽」に於いてご芳名・金額もお知らせする事にしております。五カ年と言う期間での運動であり今後とも出来る限りの協力をして参りたいと考えます。

募金実績は、八月八日現在、一千五百九十九件、九〇、八三六、九六八円です。3、同窓会活動について各支部と協議・交流する

本部から各支部総会に訪問協議交流を深めて参りましたが近年支部間の交流も盛んになってきたことは喜ばしい事でありました。

4、82回生に記念品贈呈

母校ブラスバンド部が収録した校歌のCDと帽子を贈呈いたしました。

5、会報誌「向陽」の発行

総会の内容を含め総会終了後可能な限り速やかに発送をするよう努力しております。

6、その他母校の発展に資する事業
二〇〇〇年の創立八〇周年記念事

業の中で単年度の事業でなく今後の土佐中高の発展を期して「百年委員会」「TSL委員会(教員研修プログラム)」が設立されました。TSL委員会の研修基金として同窓会・振興会・学校が各一千万円を醸出三千万円が集まり研修に約七百万円使用効果を上げてまいりましたが一九年三月現在で約二千三百万円の繰越金となっていました。教員の時間的余裕などの現状と今後を展望する時、内一千五百万円を奨学金基金のほうに振り替えて活用したいとの要請があり、代表役員会・支部長会にはかり承諾いたしました。

なお本件は理事会に於いても承諾されているものです。

審議事項

1、

二〇〇六年度収支決算

二〇〇七年度事業計画案並びに

収支予算案は全て提案どおり可決承認されました。

2、本部役員の選任が行われ現役員が全員再任されました。

二〇〇七年八月二日改選

土佐中・高等学校同窓会新役員案

会長	宮地 貫一(21回)	再任
副会長	溝淵 真清(32回)	再任
副会長	岡内 紀雄(34回)	再任
副会長	横田 整二(40回)	再任
副会長	川B 康正(42回)	再任
副会長	北村恵美子(47回)	再任
幹事長	安岡 範悦(39回)	再任
副幹事長	岡田 容典(47回)	再任
副幹事長	西山 彰一(48回)	再任
副幹事長	宮地 貴嗣(61回)	再任
副幹事長	矢野 公士(62回)	再任
会計	千頭 裕(58回)	再任
会計監査	森木 将雄(32回)	再任
	田中 章夫(40回)	再任



二〇〇七年大学入試を振り返って

進路部長 岡松 宏明

(1)合格の状況

国立大学	現	浪	計	進学
北海道大	3	1	4	3
東北大	1		1	1
筑波大	1	1	2	2
埼玉大	2		2	2
千葉大	3	1	4	4
東京大	7	4	11	11
東京外国語大	3		3	2
東京学芸大	1	1	2	2
東京工業大	1		1	1
東京医科歯科大		1	1	1
一橋大	1		1	1
横浜国立大	3	1	4	4
富山大		1	1	1
静岡大	1		1	1
名古屋大		3	3	3
京都大	8	4	12	12
京大工芸繊維大	2	1	3	2
大阪大	12	6	18	18
大阪教育大		1	1	1
兵庫教育大		1	1	1
神戸大	3	3	6	6
岡山大	9	5	14	14
広島大	3	3	6	4
山口大	2		2	1
徳島大	4	4	8	7
香川大	2		2	1
愛媛大	3	4	7	5
高知大	23	7	30	24
九州大	3	3	6	5
佐賀大	1		1	1
大分大		1	1	1
宮崎大	1	1	2	2
鹿児島大		1	1	1
計	103	59	162	145
昨年	83	47	130	120

公立大学	現	浪	計	進学
高崎経済大		1	1	1
埼玉県立大		1	1	1
首都大学東京	2	2	4	4
横浜市立大		1	1	1
名古屋市立大		1	1	1
滋賀県立大	1		1	1
京都府立大	1		1	1
大阪市立大	3	1	4	4
大阪府立大	2	2	4	1
神戸市外国語大		1	1	1
岡山県立大		2	2	1
高知女子大	1	1	2	2
北九州市立大	1		1	1
九州歯科大		2	2	1
計	11	15	26	21
昨年	13	5	18	12

私立大学	現	浪	計	進学
東北薬科大	1		1	
自治医科大		2	2	2
明海大	1		1	1
東邦音大		1	1	1
女子栄養大		1	1	
青山学院大	7		7	3
学習院大	1		1	1
北里大	3	2	5	1
慶応義塾大	14	5	19	6
工学院大	1		1	
駒澤大	4	2	6	1
芝浦工業大	4	2	6	2
順天堂大	1		1	1
上智大	4	1	5	2
昭和大	1	2	3	2
昭和女子大	1		1	
専修大	1	4	5	
創価大	1		1	
大正大	1		1	
中央大	11	6	17	5
帝京大	2	1	3	1
東海大	2	5	7	1
東京医科大		1	1	1
東京家政大		1	1	
東京経済大		1	1	
東京慈恵医科大		2	2	1
東京女子医大	1		1	
東京電機大		1	1	1
東京農業大	3		3	2
東京薬科大	1		1	1
東京理科大	14	12	26	4
東邦大		1	1	
東洋大		1	1	1
二松学舎大		2	2	1
日本大	6	10	16	4
日本医科大	1	1	2	
日本歯科大	2		2	1
東京歯科大		1	1	
日本女子大	1		1	1
法政大	8	4	12	5
武蔵工業大	2	1	3	1
明治大	15	6	21	6
明治学院大	1	3	4	3
明治薬科大	1		1	1
立正大	1	1	2	
立教大	1	2	3	3
和光大		3	3	
早稲田大	16	11	27	10
神奈川大	1		1	
フェリス学院大		2	2	
金沢工大	1		1	
愛知工業大	1		1	
中京大	1		1	
南山大	1		1	1

私立大学	現	浪	計	進学
名城大	1		1	1
大谷大	1		1	
京都外国語大		1	1	
京都産業大	9	2	11	3
京都女子大	3		3	1
京都薬科大	5	4	9	1
同志社大	23	11	34	12
同志社女子大	4	1	5	2
立命館大	53	33	86	9
龍谷大	8	1	9	2
京都文教大	1	1	2	2
大阪医科大	1	2	3	
大阪経済大	9		9	
大阪経済法科大	1		1	
大阪工業大	2		2	1
大阪歯科大		1	1	
大阪薬科大	2	2	4	2
関西大	18	10	28	3
近畿大	6	16	22	3
摂南大		1	1	
桃山学院大	2		2	
関西医療大	1		1	
四条畷学院大	1		1	1
関西学院大	48	9	57	12
甲南大	1	1	1	1
神戸学院大	8	2	10	5
神戸女子大	2	2	4	2
神戸薬科大	2	1	3	3
兵庫医科大		1	1	
武庫川女子大	1		1	
関西福祉科学大		1	1	1
近畿福祉大	1		1	1
帝塚山大	1		1	
岡山理科大		6	6	
くらしき作陽大	1		1	1
川崎医療福祉大	1		1	
福山大	1		1	
徳島文理大	7	3	10	4
四国学院大	1		1	
松山大	2	1	3	1
高知工科大	5	4	9	4
第一薬科大	1		1	
久留米大		1	1	
計	353	206	558	156
昨年	317	211	528	135

準大学・他	現	浪	計	進学
防衛大	1		1	1
海上保安大	1		1	1
短大・通信大		3	3	2
専門学校	4	1	5	5
留学準備	2		2	—
他	1		1	—

今年の卒業生（82回生）は、授業に臨む姿勢がよく、各先生の評価は非常に高かった。また模試成績も上位の層が厚く結果が期待されていたが、それに十分にこたえる内容であった。東大、京大、阪大で2桁の合格者が出たのを始め、難関10大学（旧帝大7校＋一橋・東工・神戸）の合格者は60名を超え、現役合格率は80%に乗った。週刊誌の入試成績ランキングに取り上げられることも多く進学成績で本校の存在感を示せた年となった。

東大・京大・阪大共に10名以上の合格は、昭和62年度以来である。この年は国公立大を全員2校受験できた特別制度の年なので、今年の結果と単純に比較できないことを考え合わせると、今春の結果は30年ぶりの好成绩であったといえる。

医学部は、高知大医学部のAO入試で手厚い対策が実を結び、定員30名中9名（現役8名）が本校生であった。あわせて推薦入試では徳島大、佐賀大に合格。また浪人生の頑張りも目を引く。東京医歯大、名古屋大、大阪大、広島大と医学部の中でも最難関の大学に合格。自治医大は2名とも本校生であり、医学部に強い本校の特徴が今年も維持できた。

今春入試結果が、このような好成绩をあげた原因として、現役生がセンター試験難化や未履修問題にも動揺することなく、平常心で最後までお互いに励ましあいながら努力したことがあげられる。また浪人生が着実に力をつけ、難関大学・医学部の合格につなげたことも大きい。

この結果を今年限りのものとせず、これからにつなげていくことが重要だと考える。



登山部

がんばる 現役生！

文武 両道



女子テニス部



バドミントン部

2007県高校体育大会 (5/19~21・6/16~17)

【団体】

- 優勝 バドミントン(男子) テニス(女子)
- 登山(男子・4年連続)
- 2位 水泳(男子学校対抗)

【個人】優勝

- 陸上：男子1600mリレー(山崎・田口・松岡・山下)
- 女子400m 深谷、800m 小野
- 柔道：90kg級 尾木
- バドミントン：男子ダブルス 永野・川崎
- 自転車：スクラッチ 山下
- テニス：女子ダブルス 小川・森、シングルス 森
- 水泳：男子200m平 北村
- 800mリレー(池上・北村・品田・利岡)
- 女子200mバタフライ 森下

2007中学校県体

【団体】優勝 ハンドボール(男子)

【個人】優勝

- 陸上：女子400mリレー(松岡・吉村・宮崎・武藤)
- 走り幅跳び 松岡聖香
- 水泳：女子200m自由 中平早紀、400m自由 中平早紀
- 100m平 谷田智聡、200m平 谷田智聡
- 100m背 佐々木麻い、200m背 佐々木麻い

全国大会出場

インターハイ

【団体】

- 登山
- バドミントン(男子)
- テニス(女子)

【個人】

- 陸上：男子1600mリレー(山崎・田口・松岡・山下)
- 女子1600mリレー(中谷・小野・安田・深谷)
- 400m 山下康平
- 空手道：佐々木里沙
- 柔道：尾木伸慶
- バドミントン：永野翔太・川崎啓済
- テニス：森瀬里奈

棋道：第31回全国高校総合文化祭

文部科学大臣杯小・中学生将棋団体戦

文部科学大臣杯小・中学校囲碁団体戦

文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会

(竹内千翔)

文部科学大臣杯少年少女囲碁大会(松尾啓太)

放送：NHK杯全国高校放送コンテスト

第31回全国高校総合文化祭

文芸：第31回全国高校総合文化祭

支部だより

関東支部



町田 憲昭(67回生)

関東支部では会員の親睦を図る機会として、例年、筆山会(二〇〇七年は一月開催)、学年幹事会(二〇〇七年二月開催)、総会・懇親会(二〇〇七年六月開催)等を開催しています。

今年の総会は会場を丸の内として六月二日に開催し、懇親会は丸の内ビルディング(通称丸ビル)のホールを借りて行いました。当日の懇親会場には、かつおのたたき、じゃこ、土佐天、トマト、小夏、芋けんぴ等々の高知を思い出す食材が並び、ステージ上には坂本竜馬像が設置され、高知色の強い懇親会となりました。

た。

懇親会では三〇〇人超の土佐高卒業生に囲まれ、自分の出身地、出身高校に思いを寄せ、高知の魅力を再確認できたように思います。同窓会の楽しみ方は人それぞれあり、今後もどなたでもその人なりに楽しむことができる機会であればと感じました。

他にも、大学卒業後の進路や仕事について学生と社会人との間での情報交換を目的とした交流会(二〇〇七年一月一七日開催予定。詳しくは関東支部ホームページまで <http://www.tosako-kanto.org/>)等の会員の親睦を深める催しが多々あります。すでに関東にいらっしやる方もこれから関東にいらっしやる方も、ご都合が許せば、ぜひこれらの集まりに参加していただければと思います。

東海支部



村山 文世(41回生)

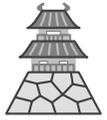
東海地方の近況をお知らせいたします。万博以降も好景気は続き、今や日本の元気はナゴヤから!というような感じです。新幹線で名古屋駅を通過される方はお気づきになられたかもしれませんが、超高層ビルがJRセントラルタワーズ、ミッドランドスクエア、モード学園スパイラルタワーズなどが次々に空に向かつて伸び、さらには近くの納屋橋地区のアクアタウン納屋橋、納屋橋ルネサンスタワーの計画も具体化して、昔の通過駅の寂しい面影はありません。

五月一九日にキャッスル・プラザ

ホテルで開催した東海支部総会では母校から池上校長先生、本部から岡内副会長、新校舎募金委員会委員長、西山副幹事長のご出席をいただきありがとうございました。

東海支部は相変わらず少人数ではありますがありますが、ナゴヤの元気をそのままに久保地支部長はじめ支部会員一同がんばっています。新校舎建築募金に東海支部会員も熱き支援を行い、立派な校舎で現役学生が学ぶ姿を思い、併せて向陽グラウンドで育った球児が活躍されて、甲子園のセンターポールに上がる校旗を眺めて向陽の空を歌える日が来ることを夢見ております。最後に同窓会本部の皆様のご健康と益々のご発展をお祈りして東海支部便りとさせていただきます。

関西支部



原田 和人(56回生)

関西支部事務局より今年度の活動内容をご報告申し上げます。

これまで関西支部では年一度の総会・懇親会を一一二月に行ってきたが、少しでも暖かい季節にとの要望があり今年度より春開催に変更致しました。四月二一日(土)都ホテル大阪にて開催、来賓一七名を含む八〇名の出席でした。

懇親会では、出席者全員が年代を越え土佐卒業生として親交を深めることが出来ました。最後には全員鳴子を手に、恒例の『よさこい踊り』で盛り上がりました。併せて同窓会本部・各支部の連絡協議会も同日開催されました。

関西支部では機関誌『なんぶつ』の編集・発行も行っております。『なんぶつ』は一六ページほどの冊子ですが、関西支部会員の皆様から寄せられた記事を主体に構成されています。また各支部や母校の近況も紹介させて頂いております。今年もより多くの新しい方々に登場して頂きたいと思っております。

来年度(二〇〇八年)総会・懇親会の開催日、場所は次の通りです。

二〇〇八年四月一九日(土)

シエラトン都ホテル大阪

(大阪市天王寺区上本町)

電話〇六 六七七三 一一一一

来年度も多数の皆様にご出席頂いて、今年以上に盛り上げて行きたいと思えます。『総会案内』ならびに次号『なんぶつ』(28号)の発送も二〇〇八年一月に予定しております。

最後に、同窓生の皆様のご健康を祈願致しまして関西支部だよりとさせていただきます。

【関西支部事務局】

〒五三〇 六〇〇一

大阪市北区天満橋一 八 三〇

OA P T W 1 F M B E 二 一〇

電話 090-1073-7822

Eメール harada73@hotmail.com

広島支部



沖田 道子(41回生)

広島支部総会模様をご報告いたします。

二〇〇六年一月二五日の昨年度

支部総会では、筒井康賢氏(41S 現高知工科大学副学長)に昨年度のホームカミングデイと同じ、「ものづくり技術の最前線」と題した講演をお願いしました。加えて、ますます熾烈になる中国進出における問題点の話もありました。具体例を示しての講演で、日本の多くの企業にとって、実務的で役立ちます。なお昨年より新しく、森沢範康(50T)大谷準一(51T)両氏が支部役員に加わりました。

懇親会では、小村彰教諭(49

N)・片山保行関西支部幹事(49

O)・門田佳代幹事(49O)、そして

飛び入りの間谷和正教諭(40

T)・沖修一支部長(40T)・山崎

迪子事務局長(40T)と、三二同期

会の様相でした。又今回広島で、大

昔の誤解を解いた北村恵美子本部副

会長(47K)と間谷泰子教諭は、二

人で手を取りあい涙ぐんでいます。

総会翌日には、小島康広島支部会計

(37K)が東海支部神宮恵美子事務

局長(44S)と久保徳子さん(31H)

を宮島にご案内しました。

今広島では、一一月一〇日(土)

同じ県民文化センターでの平成一九

年度支部総会に向けての準備を開始

しています。当支部幹事の宮田賢二

県立女子大名普教授(33T)に講演

をお願いしました。この秋、中国四
川省成都の西にある未踏峰霸王(八
才)山に遠征される予定で、その旅
のお話をしていただきます。そして
今年の支部総会では、母校建設資金
の寄付を、大声で呼びかけます。ど
うか、広島支部をお訪ねください。

香川支部



大石 浩(54回生)

香川支部の総会は「七夕総会」と
称して毎年七月第一土曜日に開催し
ていますが、今年はまだに七月七日
「七夕」の日に、一年振りの賑やか
な再会となりました。当日は、母校
から三浦教頭先生、本部から岡内副
会長、北岡募金委員をはじめとして
本部・支部役員の皆さま七名にご参
加いただき、香川支部会員三九名と
あわせて、合計四六名の同窓生で大
いに盛り上がる事ができました。
遠くから高松までお越し下さったご
来賓の皆さまには、心からお礼申し
上げます。

さて、香川では、今年も猛暑と水
不足に見舞われました。ここ数年の
傾向ではありますが、五、六月にか
けて雨の降らない暑い日が続き、早

明浦ダムの貯水率を毎日気にしながらの毎日でした。生活・産業ともに早明浦ダムからの分水（香川用水）に多くを頼っている香川県民にとっては、高知（特に早明浦ダム周辺の山間部）での降雨が大きな関心事となつて居るので、干上がったダム湖の底に現れる旧役場の建物をみて一番心配しているのは、香川の人達なのです。幸いにして、その後の台風の影響などで深刻な事態には至りませんでした。今年も我が家では、万に備えたペットボトルの水の在庫がたくさん積みあがっています。常日頃、何気なく使っている「水」ですが、こんな時に本当のありがたさを思い知らされます。

来年の香川支部総会は、七月五日（土）を予定しています。会場は、装い新たに再開された高松駅前にあるシンボルタワーです。ご都合の許す方は、是非ともご参加下さい。

北海道支部



島村 昭範（49回生）

北海道も早いところでは紅葉が進んでいます。九月の札幌はまだ雪を越える陽気です。

北海道支部は、二〇〇五年六月に同窓会本部や各支部の絶大なご支援のもとに誕生してから、今年で二年が経過しました。そして、役員改選期を迎え、七月一四日の北海道支部総会において、以下の新体制が承認されました。

- 支部長… 池川昌弘（39）
- 幹事長… 和田健夫（44）
- 幹事…
 - 弘光 喬（31）、田原哲士（37）
 - 武田 光（38）、森木潤一郎（41）
 - 先川信一郎（45）、服部 弘（49）
 - 山本隆昭（53）、石川多香（68）
- 事務局… 島村昭範（49）

今年の北海道支部総会は、札幌すすきので、本部から安岡幹事長、関東支部から市川幹事長など、五名の来賓をお迎えして開催いたしました。井上聖香教頭先生や窪田秀忠前北海道支部幹事長も高知からご出席の予定でしたが、あいにく台風4号の影響で高知発の航空便が欠航となり、急遽出席をとりやめることになってしまいました。北海道支部会員の出席はわずかに九名でしたが、出席者に女性が五名もいたので懇親会は華やかで賑やかに終始しました。

二〇〇六年度 物故者名簿

（二〇〇七年八月三十一日現在）

会 員	年 齢	氏 名	年 齢	氏 名	年 齢	氏 名	年 齢
平 18	・ 8	黒岩	18	・ 3	中山	14	・ 12
17	・ 6	・ 5	・ 5	・ 5	・ 3	・ 3	・ 7
12	・ 6	・ 5	・ 5	・ 5	・ 3	・ 3	・ 7
17	・ 6	・ 5	・ 5	・ 5	・ 3	・ 3	・ 7
18	・ 1	・ 4	・ 5	・ 5	・ 3	・ 3	・ 7
17	・ 6	・ 14	・ 5	・ 5	・ 3	・ 3	・ 7
18	・ 5	・ 9	・ 5	・ 5	・ 3	・ 3	・ 7
17	・ 7	・ 23	・ 5	・ 5	・ 3	・ 3	・ 7
18	・ 9	・ 28	・ 5	・ 5	・ 3	・ 3	・ 7
18	・ 2	・ 12	・ 5	・ 5	・ 3	・ 3	・ 7
18	・ 11	・ 15	・ 5	・ 5	・ 3	・ 3	・ 7
19	・ 1	・ 10	・ 5	・ 5	・ 3	・ 3	・ 7
18	・ 2	・ 5	・ 5	・ 5	・ 3	・ 3	・ 7
18	・ 12	・ 3	・ 5	・ 5	・ 3	・ 3	・ 7
18	・ 12	・ 3	・ 5	・ 5	・ 3	・ 3	・ 7

編集後記

ありがとう 私たちの新校舎

昭和四八年竣工の新校舎が改築のためその役目を終える日がやってきた。心からありがとうお世話になりましたと感謝をしたい。私は昭和四二年に土佐中学校に入学以来高校一年の終わりまで木造の校舎で、高校二年と三年の二年間を鉄筋コンクリートの新校舎で学ばせていただいた。

歴史と風格を感じる木造校舎から近代的な校舎に移ったとき、あまりの美しさに驚いた。この学舎から卒業三五周年を迎えた47回生を筆頭に今日まで一万二千人あまりの生徒が巣立っていった。今年の八月十二日、この校舎での最後の同窓会総会、ホームカミングデーの折り、お世話になった教室を訪ね、友との語らいを思い浮かべながら「ありがとう 本当にお世話になりました」とつぶやいた。 西山彰一（48回生）

振興会報告

懐かしい母校への思い出と共に、伝統が伝統としていつまでも輝いてゆく為には、常に時代を先取りした、絶えざる自己変革が必要です。

この九月二六日に、新校舎建築の起工式が執り行われました。土佐校がいつまでも輝かしい母校であり続ける為の新たな歴史の一步です。

同窓生の皆様と共に、私も振興会も新たな歴史を築いてゆくお力になれればと思います。今後とも宜しく、ご指導をお願い致します。

会 長	徳永 俊一
副会長(総務)	北村恵美子
副会長(進学)	久松 朋水
副会長(広報)	島内 祥宏
監 事	山本 道也
監 事	島巻 淳
理 事	西村希多子
理 事	福島 高明
理 事	高木 直之
理 事	田所 智子
理 事	竹内多恵子
顧問	国見 直樹
顧問	田中佳代子
顧問	筒井 善樹
顧問	上岡まゆみ

募金・ア・ラ・カルト

募金委員(代表幹事代表) 北岡顕史(36年生)

平成十九年の秋を迎え、いよいよ新校舎の建築が始まった。

南海地震対応として免震構造の六階建て校舎や総合体育館等を含めて約四十億円の予算で約二年間の工期を予定する。

この建築完成後には高知県から約七億円の補助金が出る事になったが、自前の資金や各種の制度融資資金等の他に併せて五年計画で四億円の募金活動もスタートした。

既に一千万の寄付が二口も
約半年で総額一億円を突破

募金活動が開始してから約半年、一口一千万の寄付が二口、五百万や百万という高額寄付を含めて総額一億円を突破したという。順調な滑り出しであるというべきか。

関心を集める寄付金額の目安

本来、寄付金額には相場というものは存在しない筈であるが、今回の寄付金額については、願わくば五年間で、個人においては一口一百万以上を、団体には一口五百万以上を法人に対しては一口十百万以上をお願いしたいというのが骨子である。

そして個人の三万円以上と団体および法人については、その名称を銘板等に表示して未永く顕彰する予定であるが、ここにきて寄付金額の相場はどれくらいなのか、また、親や兄弟等で纏まった場合の一家族は団体扱い

をするのか否か等の話題が集まるようになってきているとも仄聞する。今現在、連携出来る同窓会会員は一万五千余名とされるが、今回の募金に呼応してくれる同窓会会員は何割りくらいになるだろうか、という事も話題の一つであろう。

寄付金相場については当事者の年齢や職業或いは母校に対する愛着等を参考にして最終的には本人の可処分所得等に依りて要請するしか術がない、と思われる。因みに筆者の同級生(六五才)の多くには一人一口最低十から百万程度を五年間割賦で、と要請しているが、中には、この乏しい年金から更に強奪するつもりなのか、と言って苦笑する友も存在するが、中には、よく分かった、貧者の一灯として百万を寄付しよう、と言ってくれる誠実な友が存在する事にも触れておきたい。

純金の銘板や百万桜の提案も

個人三万円以上の寄付金者と団体および法人については、その名称を銘板等に表示して未永く顕彰する事になっているが、高額寄付者に対応するためには、その銘板を純金で作してはどうだろうか、また百万以上の高額寄付者に対してはその名を冠した桜木を植栽して土佐校百万桜林を形成してはどうか、という奇抜な提案もあり今後募金委員会で論議してもらえばと考える。





- ◆ Tシャツ (1,500円)
- ◆ タオル (1,000円)
- ◆ ストラップ (500円)
- ◆ キャップ (500円)
- ◆ 缶バッジ (100円)
- ◆ CD (校歌・応援歌 / 記念品)

大好評です!
制服型ストラップ
(男女各500円)

◆ 2008年度版
学校案内を作りました。

同窓会オリジナルグッズ

少しずつ増えてきました。お問い合わせは同窓会事務局まで。